

「子育て応援シンボルマーク」の作成について（案）

【概要】

本事業は、地域全体で子育て世帯を支援する体制づくりを進め、「地域まるごと子育て支援ネットワーク事業」による子育て応援・支援を進めていくため、地域ぐるみでの子育てを応援する機運を高める証として、子育て応援シンボルマークを作成し、市民に広く周知することで、地域全体で子育て世帯を支援する体制づくりを進めていくものです。

また、シンボルマークについては、本市から出土した埴輪「乳飲み子を抱く女子」をモチーフとして、「子育て応援のシンボルマーク」を作成し、来年度から実施する「子育て応援宣言企業等登録制度」に基づきご登録いただいた企業等に付与する登録証や登録マークとして使用する予定としております。

【作成方法】

- （募集方法） 一般公募
- （募集期間） 平成 28 年 4 月 25 日（日）～5 月 16 日（月）
- （デザイン） 本市から出土した埴輪「乳飲み子を抱く女子」をモチーフとする予定
- （選考方法） 子ども・子育て審議会のご意見を聞き、市長、副市長及び担当部長による選定を予定しております。
- （発表方法） 市報及びホームページにて発表。
- （謝礼等） 30 千円（※平成 28 年度予算計上額）

（今後の活用）

子育て応援のシンボルマークとして、

- ひたちなか市子育て応援宣言企業等登録制度
 - ・登録した企業へ渡す登録証とステッカーに利用
 - ・登録企業の印刷物やホームページ等での利用
- その他子育て支援事業等

において活用予定



参 考

時空を越えた現世への子育てメッセージ～乳飲み子を抱く女子の埴輪～

ひたちなか市大平にあった大平黄金塚古墳からは、「乳飲み子を抱く女子」という埴輪が出土しております。この埴輪は乳飲み子が左胸にしっかりとしがみつ き、左乳房をしっかりと吸い付いており、右手首は欠けているものの、乳飲み子の下部を押さえていた痕跡が残っております。また、目から頬にかけてベンガラという塗料で赤く彩色がされており、当時の埴輪で中心的なものは、ベンガラで表面が彩色されていることから、この古墳の埴輪の中でも中心的なものであったのかもしれませんが。当時の埴輪は種類も姿もかなり類型化しておりましたが、このような個性的な埴輪は全国でも例が無い唯一無二のものであり、埋葬されている方の生前の祭政の様子を再現したとか来世での幸福を願ったとか諸説言われておりますが、詳細についてはわかっておりません。

人は子どもを授かり、子どもを育て、そして親になっていくものでありますが、この一連のプロセスの中に幸福感を感じるからこそ、人類は滅びることなくここまで進化してきたのかもしれませんが。そう考えると、この埴輪が意味するものは、「子育ての幸福感」言い換えれば「子育ては幸せの源」ということなのかもしれません。

これらはあくまで想像の話ですが、今から 1,400 年以上前にこの地域の方がそのような意味を込めてこの埴輪が作ったのだとしたら、我々にはそのDNAが受け継がれている可能性もありますので、その思いを継承していくべきなのではないでしょうか。

そのために、ひたちなか市では市民の皆さんの子育ての応援をすることで、子育てにさらなる幸せを感じて欲しいと考えており、この埴輪をモチーフとしたシンボルマークを作成することとなりました。